

2017年12月11日

JR東日本長野支社

## 「踏切支障報知装置の操作スイッチ」をリニューアルして見やすくします

踏切で異常があった際に接近する列車に異常を知らせる安全設備として、JR東日本長野支社では現在管内240の踏切に「踏切支障報知装置の操作スイッチ」を設置しております。

このたびJR東日本では踏切における新たな安全性向上の取組みとして、「踏切支障報知装置の操作スイッチ」のデザインをリニューアルし視認性を向上させます。これにより踏切でトラブルがあった際に操作スイッチを見つけやすくなります。JR東日本長野支社では12月より順次デザインを変更し既存のものは3月までに完了します。今後新設する全ての「踏切支障報知装置の操作スイッチ」もリニューアル後のデザインとなります。

今後もJR東日本では踏切の安全性向上に取り組んでまいります。

### 1. 対象踏切

長野支社管内の第一種及び第三種踏切 240踏切（操作スイッチとしては476箇所）

### 2. 工事期間

2017年12月～2018年3月（予定）

### 3. リニューアル内容（別紙参照）

装置前面のパネルを交換し視認性を向上させます。

- ・蛍光板（高輝度反射材）の採用
- ・ピクトグラム・ふりがな・英語を新規表記



リニューアル前

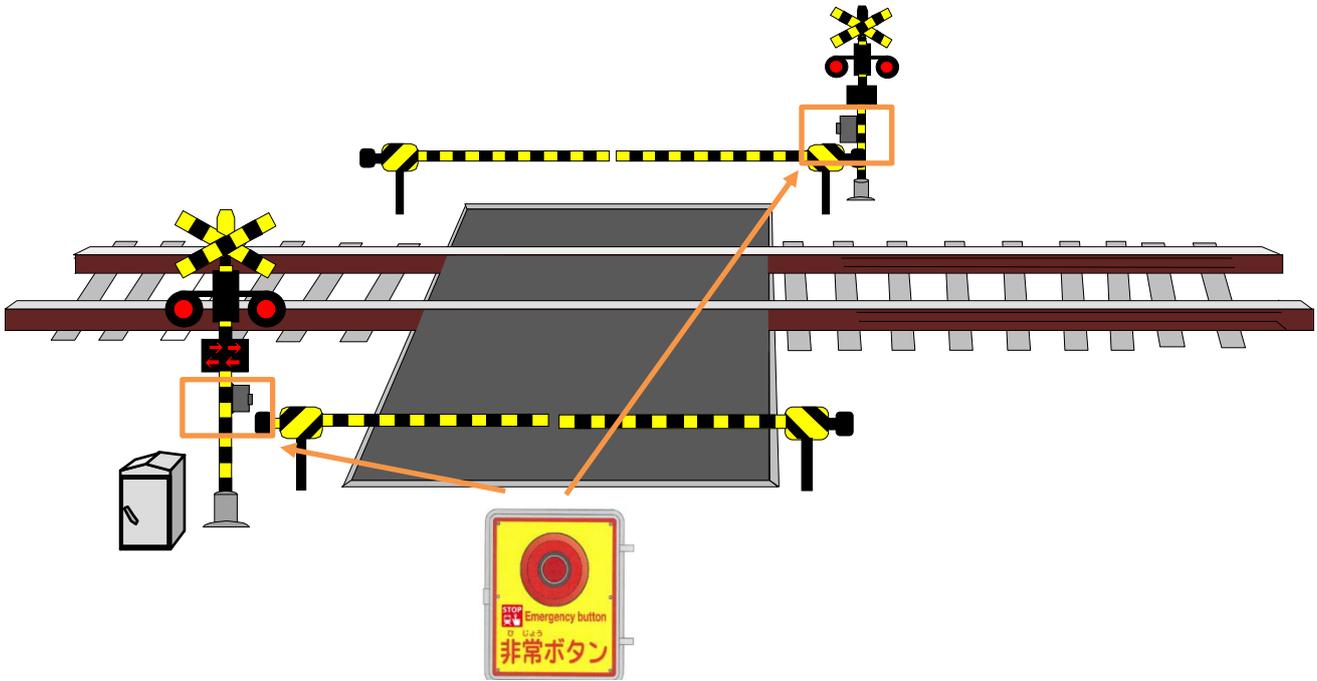


リニューアル後

### 【踏切支障報知装置の操作スイッチ】

踏切におけるトラブルを列車等に知らせることができる設備。装置が押されると踏切近くに設置されている特殊信号発光機が点滅し、踏切に接近する列車の運転士に知らせます。特殊信号発光機の点滅を確認した運転士はすぐに非常ブレーキをかけ、事故防止や被害の軽減を図ります。

設置イメージ



リニューアル後の踏切



施工済踏切（飯山線）



操作スイッチ（拡大）